

箱根駅伝



襷を繋いだ217.1kmの戦い

©Getsuriku 大手町スタート地点

第101回東京箱根間往復大学駅伝競走が1月2・3日に行われ、専修大学陸上競技部は2年ぶり72回目（歴代出場回数第7位）の出場を果たした。大観衆に見守られた東京・大手町（読売新聞社前）～神奈川・箱根町（芦ノ湖駐車場入口）の往復10区間、217.1kmの箱根路を専大ランナーは確かな走りで襷を繋いだ。

2日の往路は健闘したものの厳しいレース展開。3日の復路で巻き返し、着実に順位を上げた。結果は、往路20位、復路16位、総合17位。

各所の応援ポイントには、育友会員をはじめ、学生、教職員、卒業生らが集まり、声援でその走りを後押しした。S字を胸に力の限り走る選手の姿は、見る者の心を熱くした。

往路

1区

(21.3km)

新井 友裕 (文3)

1時間3分32秒 / 区間19位 / 総合19位

©Getsuriku

2区

(23.1km)

ダンカン マイナ (商1)

1時間7分29秒 / 区間13位 / 総合15位

3区

(21.4km)

上山 詩樹 (経済2)

1時間3分10秒 / 区間12位 / 総合15位



©Getsuriku



4区
(20.9km)

手塚 太一 (経営 3)
1時間 4分 51秒 /
区間 19位 / 総合 18位



5区
(20.8km)

田口 萩太 (文 1)
1時間 17分 48秒 /
区間 20位 / 総合 20位

復路



6区
(20.8km)

丹 柁 太郎 (人 2)
59分 36秒 /
区間 14位 / 総合 20位



7区
(21.3km)

具志堅 一斗 (経営 2)
1時間 4分 26秒 /
区間 13位 / 総合 19位



8区
(21.4km)

犬塚 知宏 (文 3)
1時間 6分 15秒 /
区間 15位 / 総合 19位

9区
(23.1km)

大田和 一斗 (文 4)
1時間 10分 36秒 /
区間 15位 / 総合 18位



10区
(23.0km)

藁科 健斗 (経営 3)
1時間 11分 10秒 /
区間 14位 / 総合 17位

箱根路の各ポイントで選手にエール

専修大学では箱根路の各所に応援ポイントを設置。育友会も全国各支部から寄せられたメッセージで作った幟を持って選手にエールを送った。



2日、大手町



2日、芦ノ湖



3日、大手町



3日レース後、大手町で開かれた報告会で佐々木重人学長が選手の健闘を称えた

予選会 堂々の2位通過



14.5km 地点の応援ポイント

気温30度超の過酷なレース

箱根駅伝の本戦から2カ月半さかのぼる昨年10月19日(土)、東京都立川市で開催された箱根駅伝予選会。陸上自衛隊立川駐屯地からスタートし、市街を抜け、昭和記念公園内を回る21.0975kmのハーフマラソンコースを43校で競ったレース。

9時35分の号砲と共に、立川駐屯地の滑走路に地鳴りのような足音が響いた。各校10~12名の選手が走り、上位10名の合計タイムで勝敗を決す



る。本戦出場の権利を得るのはわずか10校。

10月にして異例の30度を超す真夏日となり、体調不良者も多く出た過酷なレース。専修大学は1年の留学生ダンカンマイナ選手(商1)が1時間1分47秒で3位、新井友裕選手(文3)が21位、上山詩樹(経済2)が26位と快走。続く専大ランナーも好タイムでゴールへと駆け込んだ。

各応援ポイントで声をからした育友会員、学生、教職員、校友会員は、レース後、ゴール近くの広場に集まり、結果発表を待った。そして…。

「2位、専修大学!」予想を上回る好成績に大歓声が巻き起こった。



各支部から集まり、育友会として80名ほどが応援に来ました。前年の悔しさがありましたから、必ず箱根へと願って応援しました。20キロ地点でも選手たちは応援に元気に応えてくれる余裕があったので、これは行けるぞと思っていました。そしたら、なんと2位通過!みんな大喜びです。 育友会長 満田勝彦

予選会を2位で終え、選手を囲んでオール専修で記念撮影

